



PRO-LIFE NEWS

(中絶に反対する運動)

〒780 高知市新本町一丁目七番三十一号

神聖な人間の命

これは一九九二年三月にアイルランドの司教達が出版した人間の神聖さについての声明である。

1 アイルランドでは中絶についての危機が起こっている。アイルランド共和国における合法的な中絶をまくろんでいる最高裁判所の最近の判決に対して、司教達の多くは遺憾に思っている。中絶される子供の命の権利は、中絶を違法とする制度によって守られていたと言いつの、アイルランド国民の理解だった。今や、中絶は合法的だと主張されている。その結果はあらゆる観点からみてきわめて重要である。

2 人間の命は神からの

3

贈り物である。「あなたは、私の内臓を造り、母の胎内に私を組み立てて下さった。私はあなたに感謝を捧げる。私は恐ろしい力によって驚くべきものに作り上げられている。」

(詩編 139)

妊娠した時に人間の命が存在し始めるその瞬間から、その命は他のどんな人間の命とも同じように尊重され、保護される権利を与えられる。この命を破壊しようとするいかなる行為も倫理的に誤っている。母子どちらの命も神聖なものであり、どちらの命の権利も不可侵のものである。中絶は無垢な命をまさに奪う事であり、その動機がどうであれ正当化できない。裁判所の判決や、人間の命がいつ始まるかと言う判断は

4

この倫理の基盤に全く触れていないのである。

司教として、私達はキリストの真理の使徒であり、又、キリストの愛の使徒である。困難な状況で妊娠したばかりに、自分が必要な唯一の解決策が中絶であると誤って考える女性の苦悩や悲嘆を私達は理解している。中絶の前に女性を苦しめ、中絶した後も長く彼女達を苦しめ続けるであろう精神的苦痛を私達は知っている。

教会はいつでも彼女達にキリストの安らぎと癒しと許しを与えたいと願っている。アイルランドの教会はこうした苦しむ女性達をあらゆる形で援護し、助ける事に専念している。

5

私達の法律や裁判所が、中絶される子供が持つている保護される権利を彼らに与えないと言う事は今や明らかだ。この態度は私達の社会全体に対する避けられない挑戦であり、これに遅れる事なく立ち向かわなければならぬ。

6

私達には司教として人々に福音を述べ伝える義務がある。私達には、又、福音に基づいて人間の尊厳を反映させる社会を造るため貢献する義務もある。中絶の問題は正義の問題である。この問題は産まれざる子供の権利を含む、最も基本的なあらゆる人間の権利を意味するものであるし、あらゆる社会にとつ

て不可欠の倫理である。

7 中絶が合法化されてきたところではどこでも、法律をもっと規制強化するか、または、規制をなくするかどうか、と云った法律改正のための論議が継続している。限られた状況での中絶を認める法律が、急速に中絶を要求しだい出来るようにする、と言う事が経験上示されている。

8 とくに急な試みは、今や、私達人類の中で最も弱く最も発言のない一員である産まれていない子供の命を守るための責務を遂行しようとする立法者らに直面している。この問題は最も重要で、しかも現実の進みに遅れる事

なく、論及されなければならぬ。立法化は、この根本的な責務を遂行するなかで全市民の協力を必要とし、又それを要請するのである。

9 神は全人類の作者である。私達は神の栄光を懇願すべきだが、その栄光とは、今この時の我々全ての関心が、神に由来する命の神聖さに対する絶対的な尊崇となる事である。

十代のセックスの結末

その現実から

逃れるには

(第四部)

8 技術的な

産児制限からの解放

産児制限薬品として、十代の女性に最もよく用いられているのは経口避妊薬です。経口避妊薬はとても強力な薬品で、若い女性の生殖組織の全てに影響を及ぼし、また、数々の危険な副作用をもたらします。経口避妊薬は、凝血作用があるという欠点が証明されています。血が固まると、これがあらゆる形で体に害を及ぼします。小さな凝血でも、脳の中にできると脳卒中の原因となり、目の毛細血管の中にできると、視覚に異常が現れたり、見えなくなることさえ

あります。また、心臓の筋肉内にできると、心臓発作を起こします。

IUD（子宮内避妊器具）は、プラスチック製で、産児制限を目的として子宮の中に挿入されるものです。これは、不正出血や空気感染や子宮穿孔などの重大な合併症を引き起こす危険性があります。その結果として不妊になり、時には手術をしなければならぬことがあります。

9 人為的

不妊症からの解放

妊娠できない女性の数が、いわゆる性的革命というものによって急増しています。骨盤炎症は、人為的不妊症を起こす主な原因となっており、これはIUDを使うことによつて生じることもあります。淋病とIUDは、卵管に傷痕を残し、これが妊娠を妨げま

す。この傷痕を極微の精子が通り抜けることもありますが、新しい生命の誕生の過程とは結びつきません。むしろその結果、子宮外妊娠となり、これは母体にとって致命的なものになります。

10 使われることからの解放

私たちが持っているもの、例えば、車やお金・装飾品あるいはペニスや膣は、誰もが他人に使つて欲しくないものです。私たちは皆、自分のあるがままを受け入れて欲しいと思つているし、また愛して欲しいと思つています。にもかかわらず、私たちは自身身の都合によつて他人を使おうとしがちです。青年期の性的な欲望に寂しさからくる苦痛が重なる、お互いを性的に使おうとする強い誘惑が起こります。男性の方は、性的安心

感やエゴの満足を求めて女性をおつとし、女性の方は、自分を保護してもらったための安全な毛布として男性をおつとします。これは全てごまかしであつて他人を性的に使つたことに対する罪意識は必ず心に残ることになります。

11 評判を落とす

ことからの解放

人々は噂をします。それで、あなたのおしていることは、すぐに人々に知られるようになります。

人々は、不誠実な規範を厳しく非難します。そしてこのため、女の子は男の子に比べてよい世評を取り戻すことが実際難しいのです。

男の子に比べて女の子の方が重荷を負わされているような気がするかも知れませんが、良かれ悪しかれそれが世の中というも

のです。男の子は妊娠しないけれども、女の子は妊娠します。男の子は自分たちの子供を養子縁組に出すことをあきらめませんが、女の子はあきらめません。男の子も女の子も淋病や梅毒やヘルペスを被りません。しかし、女の子だけが経口避妊薬のために骨盤炎症や子宮頸癌や凝血の病気に苦しむのです。そこで、女性たちに忠告します。あなたたちは、男性よりも身体上失うものが多いいのです。だから、自分自身を男性の性的安心のための機械のようにとらえたり、愛を語るることによつて誘惑されたりしないようにしなさい。セックスパートナーとしてではなく、友達として尊敬されなさい。また、挑発的で淫らな思いを起させるような服装で男の子を誘惑するのはやめなさい。首を抱き合つて愛撫したり、かわいがつたりするのをやめ

なさい。そして覚えておきなさい。あなたたちは、状況をコントロールできる立場にあるということ。そして男性たちに忠告します。自分の体を大事にしなさい。時の喜びのために危険を冒してはいけません。デートをする時は、他の男の子が自分の妹を扱つて欲しいように接しなさい。覚えておきなさい。あなたの妹も、いつか誰かの母親、あるいはあなたの親友の妻になるかも知れないということ。今日の世界で、清純であることで決して後悔しないでしよう。

12 暗い未来からの解放

ちゃんとした常識があれば、あなたの未来は決して破滅しないでしょう。しかし、結婚外での性交渉は、あなたの未来を根底から覆し得るのです。性的に淫らであるという噂がた

てば、結婚話が起つた時にあなたの評判に大きなダメージを与えるかも知れません。これからの自分の仕事の計画、教育の計画、健康そして結婚した時に子供が生める体であるかどうかといったようなことは、婚前交渉によつて人生を大きく左右されることにもなりうるのです。

「胎児について」

日本の福祉行政は、困っている人や不自由な人達の事をよく考えていると思います。しかし、一番力のない、より弱い胎児に関してはどうでしょうか。妊娠している母親の心の状態は胎児にも通じます。怒つたり、何かにおびえたり、又、その母親の心の中に、赤ちゃんを欲しくないという気持ちがある場合など、それらはすべて胎児に通じます。逆に母親がいつも「兄弟愛」に満ちていて明るく寛大であれば、胎児は安らかで幸福です。胎児はまだ人間ではないと言つてもいいですが、アメリカのある専門医は医学雑誌にこう書いています。「人間の命は受胎の瞬間から始まり死ぬまで続くと言つ、誰もが知っている科学的事実を口にす

のを避けたがるのは実に不思議な事だ。」墮胎手術がどれほど恐ろしいものであるかを知ったなら、人は誰もこれを避けるでしょう。実際に生きている胎児を切断したり、強い毒で殺したり、吸引したりと言う事が行われているのです。この墮胎により余病が併発したり、心理的にも害が生じます。なぜなら、墮胎は女性の本性、アイデンティティーと対決するものだからです。

神様から授かった『小さな命』を守る事は、責任ある人間として当然の行為です。まことの愛と思いやりを持って、私達は墮胎が行われないよう努力しなければなりません。もし今、誰かが貴方の目の前で幼児を殺そうとしている所を見たなら、貴方は必死でそれを止めようとするに違いありません。きつと黙って見過ごす事はできないはず。それは胎児

に対しても同じ事です。私達にはその胎児の死に対してはつきりした責任が生じます。胎児だけでなく、その胎児の何億人もの子孫の死に対してもです。この問題はデリケートな問題なので、普段は話題になる事もなく、人によっては他人事のように考える人もいる事でしょう。しかし、実際に墮胎に悩んでいる人に出会った時まことの愛と思いやりでもって、誠実に話し合う事は、とても大事な事です。どうして

も子供を育てる事が無理なら、養子にだす事も考えられます。私達は妊娠している母親を一人ぼっちにしないように、優しい心でお世話をいたしましょう。現代では、社会的な圧迫から、仕方なしに墮胎する女性もいます。そして、後悔する—そういう人達への励ましと支えも必要です。私達は、彼女らの立場をよく理解し暖かい心で

迎えてあげなければなりません。彼女達に神様の許しと愛をつたえ、又、誠意をもってつくし、新しい希望を与える事は大切です。もしも貴方が一人の胎児を救ったなら、何億人という胎児の子孫を救う事になります。そのときの喜びは、言葉では言い表せないでしょう。貴方の愛と思いやりに満ちた「勧め」によって生まれた大勢の子供達に出会った時、貴方は大きな幸福感に包まれる事と思えます。

以上述べてきた自己イメージ、兄弟愛、命、一番弱い人間である胎児はすべて生き生きとした命を育むユイヤールと深いつながりがあり、人間にとつてとても大切な事だと思えます。私達はこれらを知るとともにますます人間としてのすばらしさを感じます。人間としてのこの素晴らしさを人々に伝え、認め

あいながら、人間本来の姿になつていきたいと思えます。

エリック・タンペ神父

4か月

この月の終わりごろには、胎児は15センチほどの身長になっています。顔は人間らしくはつきりしてきます。前頭部も発育し、透き通った皮膚の下に、糸のような赤い血管が見えます。胎児はいつそう活発に、自由に体を動かしています。



国内ニュース

超未熟児として生まれ た赤ちゃん退院

プロ・ライフ・ニュースの28号で、いちばん小さな赤ちゃん」としてお知らせしましたが、日本でも次のような記事が読売新聞の「いずみ」に掲載されました。

妊娠からわずか21週間、398グラムと言う超未熟児として生まれた亜希ちゃん(生後8カ月)が予定より2ヶ月はやく退院しました。昨年の7月17日に出生、17人の医師達が24時間態勢で対応、体重2590グラムにまでなった。父親は「こんなに早く退院できる日が来るとは思ってもいませんでした。」と感無量の面もち。

「中絶」が政治問題に

日本人は熱心に脳死の事を論じるのにそれと対をなしているはずの妊娠中絶の問題にあまり関心を示さないのはどういう訳だろう。多賀幹子「米国最新報告」行く手混沌の中絶論議(「週間朝日」2月28日号)を読めば、アメリカではこの問題が常に激しい論争を呼び起こし、大統領選挙の大きなテーマになっていている事が分かる。事情はドイツの場合も同様で、ここでも妊娠中絶に関する刑法改正の問題が深刻な政治問題となり、そこには教会の立場も深く絡んでいる。あちこちに水子供養の観音像がたてられることがあっても、妊娠中絶が深刻な政治上、宗教上の問題となる事がない日本の現状は、果たして誇るべき事なのだろうか。

読売新聞1992 2・29

「論点 92」抜粋

京都大学法学部教授

野田宣雄

国際ニュース

人口中絶是非論に

飛び火

未婚の母を讃える社会的風潮は好ましくない。このところ、ブッシュ米大統領の代弁者として、野党民主党への攻撃を強めているクエール副大統領の発言が米大統領選の大きな争点である人口妊娠中絶の是非論に飛び火し、20日、大統領自らがこの発言に注釈を付ける事態となった。この起りは、クエール副大統領が19日の演説で、テレビの人気番組を引き合いに出し、女優

キャンディス・バーゲンが演じる独身女性「マー

フィー・ブラウン」が未婚のまま出産を決意した事に「不道德だ」と文句を付けたのが原因だった。

ブッシュ政権は妊娠中絶の規制強化を掲げているが、ホワイトハウスの記者団は、未婚の母がダメなのか」とフィッツウオーター

米大統領報道官にかみついた。同じ質問は、大統領とマ

ルルーニー・カナダ首相との共同記者会見でも飛び

「両親がいる家庭が最善だが、それが常に可能なわけではない」と少し軌道修正を図る発言でかわした。

朝日新聞1992 5・22

【プロ・ライフ法案 棚上げ】

棚上げ

ポーランドで、ほとんど全ての妊娠中絶を法的に禁止するという案が、5月17日国会の下院において不明確なまま棚上げにされた。法案について国民投票をするという提案も却下された。その代わりに、国会は司法省に妊娠中絶の法律に関する問題について言及し、母親や子供達のためにさらに社会的援助をすすめるよう呼びかけた。

【200万人が署名】

コロンビアの新しい憲法に、妊娠中絶の禁止が取り入れられるよう呼びかけた嘆願書に200万人の人々が署名した。憲法は起草中で7月の終わり頃までには発布される予定である。妊娠中絶禁止の要求

は嘆願者の要求の一つにすぎない。他に、家族の権限に関するものや、宗教教育に関するものがある。この署名運動は、コロンビアのカトリック司教連盟によって組織されたものである。

読者の声

学校でもこの運動を広めていきたい

僕は教会にニュースが置いてあったので、この運動を知る事が出来ました。今度医学部に入學する事が出来たので、学校の中にも広めていきたいと思っています。アルバイトをしてお金が多かったら、ビデオや本などもたくさん買おうと思います。この運動が發展する事をお祈りいたします。聖母マリアのご保護のもとに。

(東京都Nさん)

積み重ねた罪

日本人は戦後めざましい經濟發展を遂げました。正しい手段と不正な手段を併用して。正しい手段とは、敗戦による悔しさをバ

ネにした勤勉な労働で、これは咎むべきではありません。不正な手段とは産児制限です。神は日本人に、子供を育てるのに十分な体力、氣力を与えられました。日本人はそのエネルギーを經濟發展に回したのです。金のために自分の子を抹殺……。この積み重ねた罪を神が罰し給うのはいつか……。戦慄を覚えます。

東大阪市Oさん

赤ちゃんの

ビデオを見て

今回初めて2本のビデオを見て、改めて命の大切さを知ったような気がします。私は今まで中絶する事を考えた事はありませんが、じっくり見てみると本当に残酷な事だと思いました。今妊娠中の赤ちゃんを見れる映像があるそうです。自分の子が動い

す。

仙台市Hさん

若者の声

高松教区：中ノ高校生

ワークキャンプ

こんなに

多くいるとは

妊娠中絶をする人がこんなに多くいるとは、知らなかった。

このビデオを見て妊娠中絶のむごさ、あらあらしきを見て中絶をされる子がとてもかわいそうに思えました。

もしするとしても、避妊具を使用して妊娠中絶をすることがないような行動をしようと思っていま

初めて知りました

ぼくは、妊娠中絶をする人がたくさんいたのを初めて知りまして、それに反対運動をする人がいるとは初めて知りました。しかし、このビデオを見てから思ったことは、とてもむごいことだと思いました。

たまらなく悲しい

ぼくは、中絶のことは本当にかわいそうでたまりません。胎児がかき出され死んでいくのがたまらなく悲しくて、そしてかわいそうです。なぜそんなことをしなくてはならないのでしょうか。

サイテーの行為

今まで中絶を甘く考えていたと思う。殺し方が余

りにもむごい。心臓も動いているのだから、人間と認めるべきだと思う。あのビデオを見て中絶はサイテーの行為だと思った。人間のすることではない。

RU-486に関する報告書

一般のマスコミ情報から中絶問題に関する真の知識を得られる事は殆どない。RU-486と言うフランス製中絶薬の報告も例外ではない。そこに述べられているのは、その薬が安全で効き目も早く、個人で使用でき、ガンまでも治すという事だけだ。

だが、つい先日、ヴォーグ誌にある大きな記事が掲載された。題は、「RU-486の問題点」。記事はまず、「このフランス製中絶薬が右に挙げた全ての効果を発揮する為に作られたのだが、実は右の項目は間違いだらけである事を述べている。

マサチューセッツ工科大学が先日RU-486に関する100ページにも及ぶ報告書を発表した。その報告書は、RU-486について一般に知られている事は、「単にこうあればいい」という考えに過ぎない」という結論を出している。報告書を発表した教授によると、「RU-486が個人的に使用可能だという主張は、産婦人科を訪ねなければならぬ女性の数の多さからそれが真実でない事を証明している。フランスではこの薬による中絶は簡単でもなければ一人のみの問題でもない。厳しい管理の元に置かれた四段階制度であり、ピル製造者もフランスと同じような管理が出来そうにない国にはこの薬の輸出をしない事になっている。」のだそうだ。

またこの記事は、女性がピルを使用する際に受けなければならない4回の診察をそれぞれ詳しく説明している。筆者はRU-486が手術による中絶に比

べてずっと時間とお金がかかり、一人の問題とはほど遠い事を明確に述べている。記事にはその製造会社のイギリスでのデータをも載せている。そこには950人の女性のうち907人が中絶に成功したと報告されていれが、この907人中270人が麻酔を必要とするほどの激痛を感じ、他の280人が少し弱めの鎮痛剤を必要とした。176人が嘔吐し、106人が下痢をした。中絶に失敗した43人はその後手術による中絶を余儀なくされ、そのうち7人は大量出血のため輸血を受けた。

ラットガーズ大学の公衆衛生部のある教授は、「今確かなのは、この薬が自分の家で気楽に飲めるような薬ではないと言う事だ」と語っている。

ジョン・C・ウィルキー

医学博士

胎児を救え

社会の一員として、私たちは胎児を含む無防備で自分を守ることができない人々を保護する責任がある。クリスチャンとして、私たちはより完成された律法、すなわち、神の律法を知っており、それは赤ん坊の大量殺害を許してはいない。私たちの良心はそれに背を向け、静かなる叫びに聞こえない振りをすべきではない。

神の律法は、私たちに祈り、編集者や行政機関に手紙を書き、胎児を救う運動に参加するようにと強くすすめている。私たちの良心も正しいことのために立ち上がり、中絶というこの悪を否定しなければならぬと訴えている。中絶は私たちの社会が内部から崩壊する前に廃止されなければならない。

声なきものの抹殺をやることは、神の律法に添うものであり、すべてのクリスチャンと善良な人々が支持することである。胎児は私たちに声なき人間の声になるようにと望んでいる。彼らは私たちが生命を守り、正しいことを支持するのを期待し、要求している。私たちは神の律法が定める高い基準に堅く立って生きるよう望まれている。

だから私達は、子供や孫の殺害に対して「NO」と言わなければならない。中絶は間違った行為である。生命は尊い贈り物であり無駄にしてはならない。

日本プロ・ライフ・

ムーブメント

ノボトニー・ジェリー

OMI

ABORTION

QUESTIONS & ANSWERS

中絶には賛成できないが、何らかの人口調節は必要なのではないか。私たちは人口過剰の危機に直面しているのではないか。

いいえ、むしろ私たちは自己中心の実利主義や便利さへの崇拜から危険な状態にあると言える。飢えや貧困に苦しむたくさん人間がいるのは事実だが、子供をたくさん産みすぎるという理由で貧しい人々を責めることは間違っている。開発が遅れた農耕作などを貧困や飢えの理由だとするのも妥当ではない。私たちが地球家族として責任を果たしていない事実がある。つまり、自分たちの富を分け与えることにより貧困を解決するという、私たち一人一人に対して要求される

自己犠牲に向かわず、あくまでも社会的に快適な方を選んでいく。

《事務所だより》

梅雨明けも間近となりました。お元気ですか。去る、7月11日、東京で「性にとらわれて、大切な命を忘れていませんか」と言う題のもと皆で考えるシンポジウムが開かれました。プロ・ライフからも長野の担当者樽田さんと、高知からはノボトニー先生が参加しました。

プロ・ライフの活動も増えてきました。一つは新しいパンフレットを作る事です。中絶は直接関係ありませんが、胎児の成長の過程をテーマにしたもので、出来れば、10月までに作り上げたいと考えております。もう一つは中絶の直接の現場である産婦人科病院へ、ニュースを送り、新しいアプローチが始まりました。命を守る事はごく当たり前の事。プロ・ライフはニュースを通して真

実を伝えておりますが、皆様の中にも、この運動のために努力をしたと思っ
ていらっしやる方がきつと大勢おられる事でしょう。
ニュースを読む事、この運動のPRをする事、祈る事、
この運動への参加は色々出来ませんが、今一つの
事、出来れば御寄付をお願い致したいと思えます。こ
の運動が波紋のように広がって行くためには、どう
しても皆様のお気持ちに頼るよりほかありません。
二つの増えた活動を支えて下さるためにもよろしく
お願い申し上げます。

胎児を守るためには、祈りが大切です。社会の中
には善と悪があつて、悪に対しては、私達人間の力だけ
では勝つ事が出来ません。眞実は全てで、神様への祈
りが加われば、眞実は必ず勝てるでしょう。